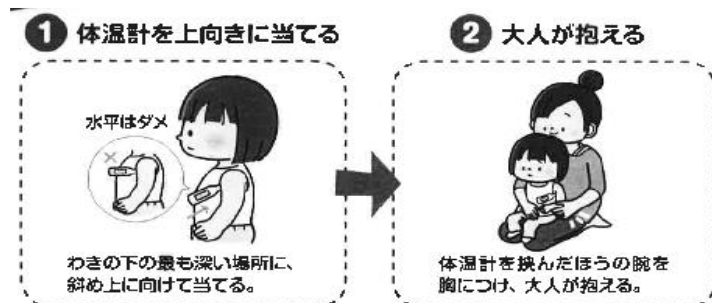


こはく（一時保育）をご利用の方へ

○検温をお願いします

保育園をご利用になる日は
検温をお願いいたします。

※正しい体温の測り方



○主な症状別の登園のめやす

厚生労働省から発表された「保育園における感染症マニュアル・症状をみるポイント
（保育園に行かれる様子）」をまとめてみました。

ご利用の際の健康チェックの参考になさってください。

発熱のとき

- ・前日に 38℃を超える熱が出ていない。
- ・熱が 37.5℃以下で、元気があり機嫌が良い。顔色が良い。
- ・食事や水分が摂れている。・咳や鼻水の症状が悪くならない。
- ・発熱を伴う発疹がでていない。・尿の回数が減っていない。
- ・24 時間以内に解熱剤を使っていない。



下痢のとき

- ・感染症の恐れがないと診断された。
- ・24 時間以内に 2 回以上水様便が出ない。
- ・食事や水分を摂っても下痢にならない。
- ・発熱を伴わない。
- ・尿の回数はいつもと変わらない。



嘔吐のとき

- ・感染症の恐れがないと診断された。
- ・24 時間以内に 2 回以上の嘔吐がない。
- ・熱を伴わない。
- ・食事や水分を摂っても吐かない。
- ・機嫌がよく元気である。
- ・顔色が良い。

咳のとき

- ・前日 38℃を超える熱は出ていない。
- ・連続した熱がない。
- ・呼吸が速くない。
- ・37.5℃以上の発熱を伴っていない。
- ・機嫌が良く、元気がある。
- ・朝食や水分が摂れている。



発疹のとき

- ・発疹について受診の結果感染の恐れがないと診断された。
- ・感染症にかかった後、治療や経過観察の結果、感染しやすい時期を過ぎ全身状態が良好になったとき。



※保育園に行けるかな？と迷った時は、電話でも構いませんので、お尋ねください。

（電話は 8 時 30 分以降をお願いいたします）

○具合が悪くなった時には、お迎えの連絡をいたします

発熱・下痢・おう吐・ひどい咳など保育園の生活が困難な状態になった時は電話連絡でお迎えをお願いします。発熱に関しては、体温が37.6℃以上で連絡を入れる目安としています。また感染症が疑われる場合も同様です。

お迎えを待つ間は側にいて様子を見ていますが、集団生活の中ではなかなか安静が保たれていないこともあります。また、病気の時は心細いものです。連絡をしましたらご都合をつけ、なるべく早く迎えにきてください。



何時ごろに、どなたが
迎えにいらっしゃれる
のか、わかりましたら
お知らせくださいね。

○保育中のけがについて

全職員でいつも安全には気を配っておりますが活発な子どもたちです。滑って転んだり、ぶつかったりひっかいたり、目の前にいてもけがを防ぎきれないことがあります。小さな傷の場合は園で手当をします。

○傷の手当てモイストフィーリング（湿潤療法） について

保育園でのキズの手当について紹介いたします。

① まずは水道水でよく洗浄する。

水道水で異物や細菌を洗い流して、感染を防ぎます。
消毒薬などをつけたばかりに、新しく生まれた細胞が
死んでしまい治癒が遅れる事もあるそうです。

（小さなキズは洗うだけで様子をみます。）

② 止血する。

清潔なガーゼやティッシュで傷を上から押さえます。

③ 乾燥を防ぎます。

表皮の再生を手助けするのが傷口に染み出た体液（浸出液）。乾くとかさぶたになってしまいますが、そうすると機能は低下してしまいます。かさぶたになると傷跡が目立つ原因になります。絆創膏を貼って乾燥を防ぎ、体液を十分に保ちます。ワセリンを傷の保護目的で塗ることもあります。

